

平成23年度 修士論文

風水思想のフラクタルな特性と韓国農村集落の景観

大分大学大学院工学研究科博士前期課程建設工学専攻
佐藤誠治・小林祐司 建築・都市計画研究室
10E5008 野口浩平

序論

○研究の背景

風水は、**地形と人間の営みを結びつける極めて環境重視の作法**である。



仮説として、

急激な工業化が進んだ現代の都市では、地形と人間、または自然と人間の関係が希薄となっている。

それは景観にも現れ、都市の景観は地形や自然を無視した粗悪なものが多いのが現状である。

そのため、自然・人間の調和ある環境形成を目的とした風水を現代において追求することは意義があると考えられる。

序論

また、韓国の集落は、60年代の工業化にはじまり、70年代のセマウル運動・住宅改良事業などを経て今日に至るまで、激しい変貌過程にある。



集落前面道路の拡張整備

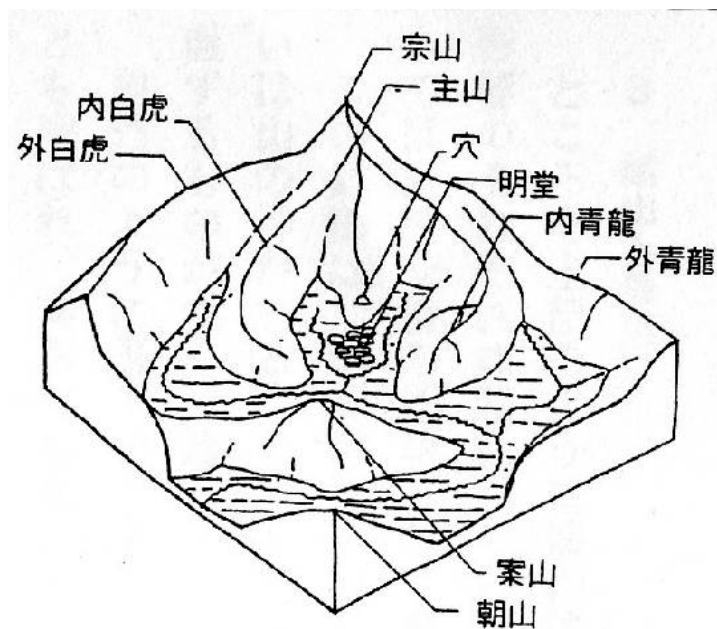


大規模工場の建設

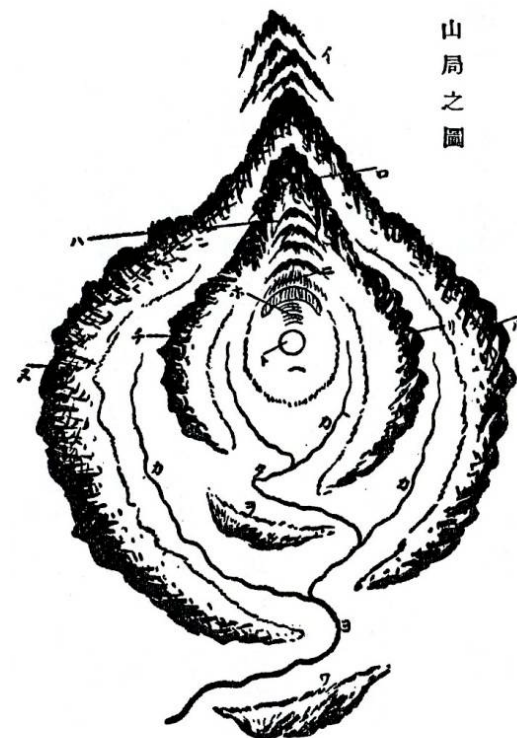
序論

○風水の概要

中国と韓国の伝統的な地理科学＝「風水地理説」
山・水・方位・人の4者によって成立する



理想的な風水の地形（3D）



タヨカヲチルヌリチトヘホニハロイ
内外水朝案外外内内穴明眉頭入主祖
水水 青白青白 宗
口口 山山龍虎龍虎 堂砂驢首山

理想的な風水の地形（平面図）

序論

○既往研究における本研究の位置づけ

風水に関する研究

- 「風水説における理念の考察 —風水に関する計画学的基礎研究その1—」
- 「風水の別称からみた風水の原点と本質 —都市計画における風水思想の基礎研究—」
- 「集落の風水史料および古地図に基づく八重山地方の集落坐向
—風水思想による沖縄の集落空間形成に関する研究 その1—」

風水と景観に関する研究

- 「数値地図情報を用いた地理的スケールの都市景観に関する研究
—風水思想をふまえたCGモデルによる都市景観分析 その1、その2—」
- 「3次元コンピュータグラフィックスを用いた景観構造分析に関する研究
—風水思想をふまえた視野域の形態分析—」

序論

○既往研究における本研究の位置づけ

風水に関する研究

- 「風水説における理念の考察 —風水に関する計画学的基礎研究その1—」
- 「風水の別称からみた風水の原点と本質 —都市計画における風水思想の基礎研究—」
- 「集落の風水史料および古地図に基づく八重山地方の集落坐向
—風水思想による沖縄の集落空間形成に関する研究 その1—」

平面・空間構成

風水と景観に関する研究

- 「数値地図情報を用いた地理的スケールの都市景観に関する研究
—風水思想をふまえたCGモデルによる都市景観分析 その1、その2—」
- 「3次元コンピュータグラフィックスを用いた景観構造分析に関する研究
—風水思想をふまえた視野域の形態分析—」

都市構造・都市形態

・風水を景観的に考察した論文は存在しないのが現状である。

序論

○研究の目的

風水景観の特性把握

- 風水の基本原理
- 視認性
- 四神砂概念
- 盆地集落

序論

○研究の目的

風水景観の特性把握

- 風水の基本原則 . . . 看龍法、蔵風法、得水法、定穴法といった風水の理念すべてに対する分析が必要である。
- 視認性
- 四神砂概念
- 盆地集落 . . . 盆地を対象とすることで、前年度と異なる新たな風水景観の発見ができる。

本研究は、景観に対する風水関与の事実関係を把握することを目的とする。

序論

○研究の方法

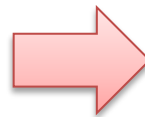
集落調査

- 写真撮影
(35mm、55mmレンズ)
- 集落構成要素の把握
(集会所、亭、風水樹、祠堂等)
- 住民ヒアリング
(風水認知、風水を感じる理由等)

韓国地図サイト「Daum」

- 航空写真
- 地図

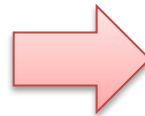
加工



使用するデータ

- 景観写真
- パノラマ写真
- 集落構成要素プロット図
- ヒアリング集計表

作成

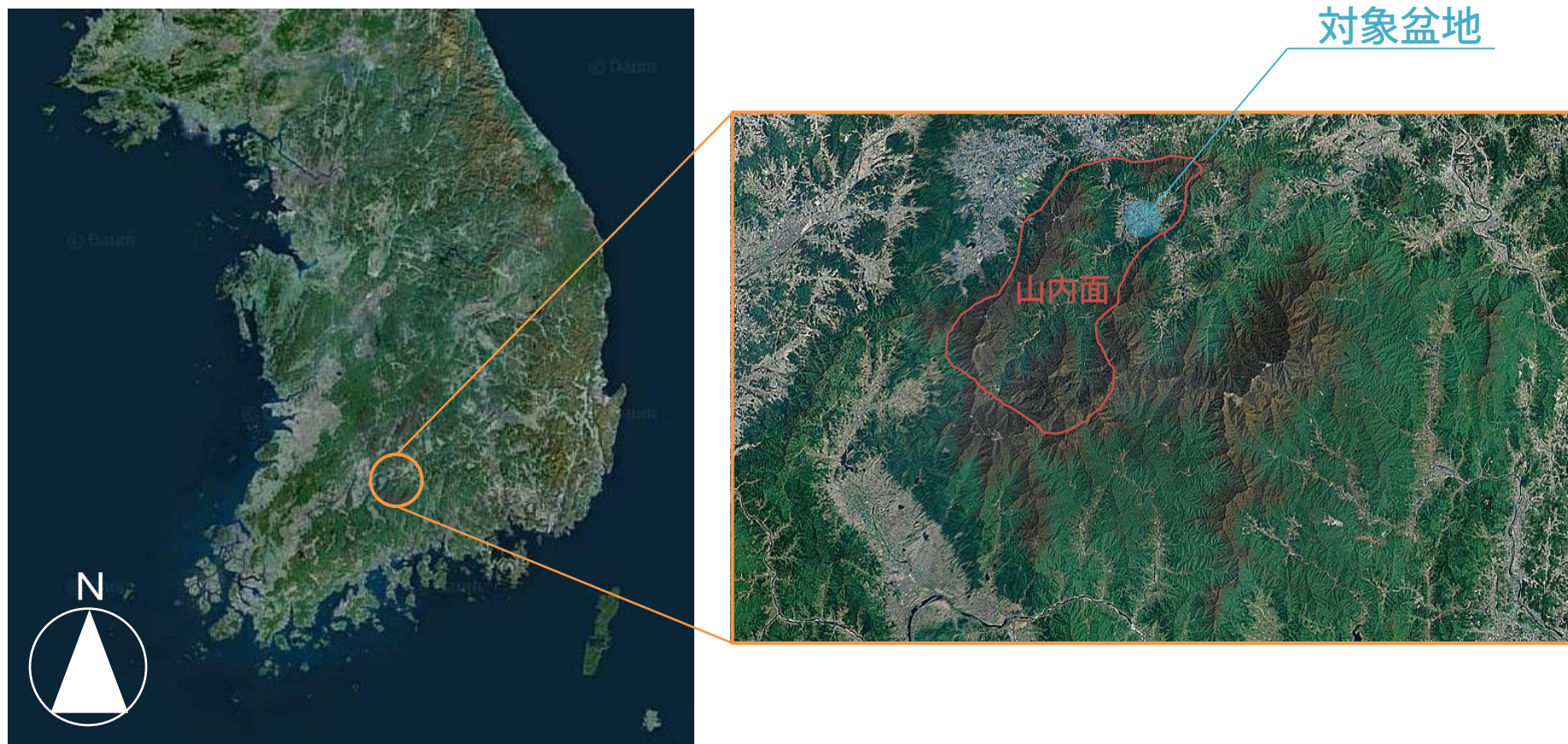


- 集落詳細地図
- 周辺地勢図
- 航空写真

序論

○研究対象地域

「韓国全羅北道南原市山内面」





大井里

中黄里

獐項里

白日里

立石里

■ 5つの里
● 11の集落

山内面 航空写真

風水思想のフラクタルな特性

はじめに

風水説には看龍法、蔵風法、得水法、定穴法、坐向論、系局論等の具体的な形式論理がある。

風水の吉地選定に至るプロセスには、超広域（看龍法）・広域（蔵風法）・中域（得水法）・境域（定穴法）という段階がみられる。
つまり、風水とは「全体」と「部分」の関係を結び付ける作法であると考えられる。

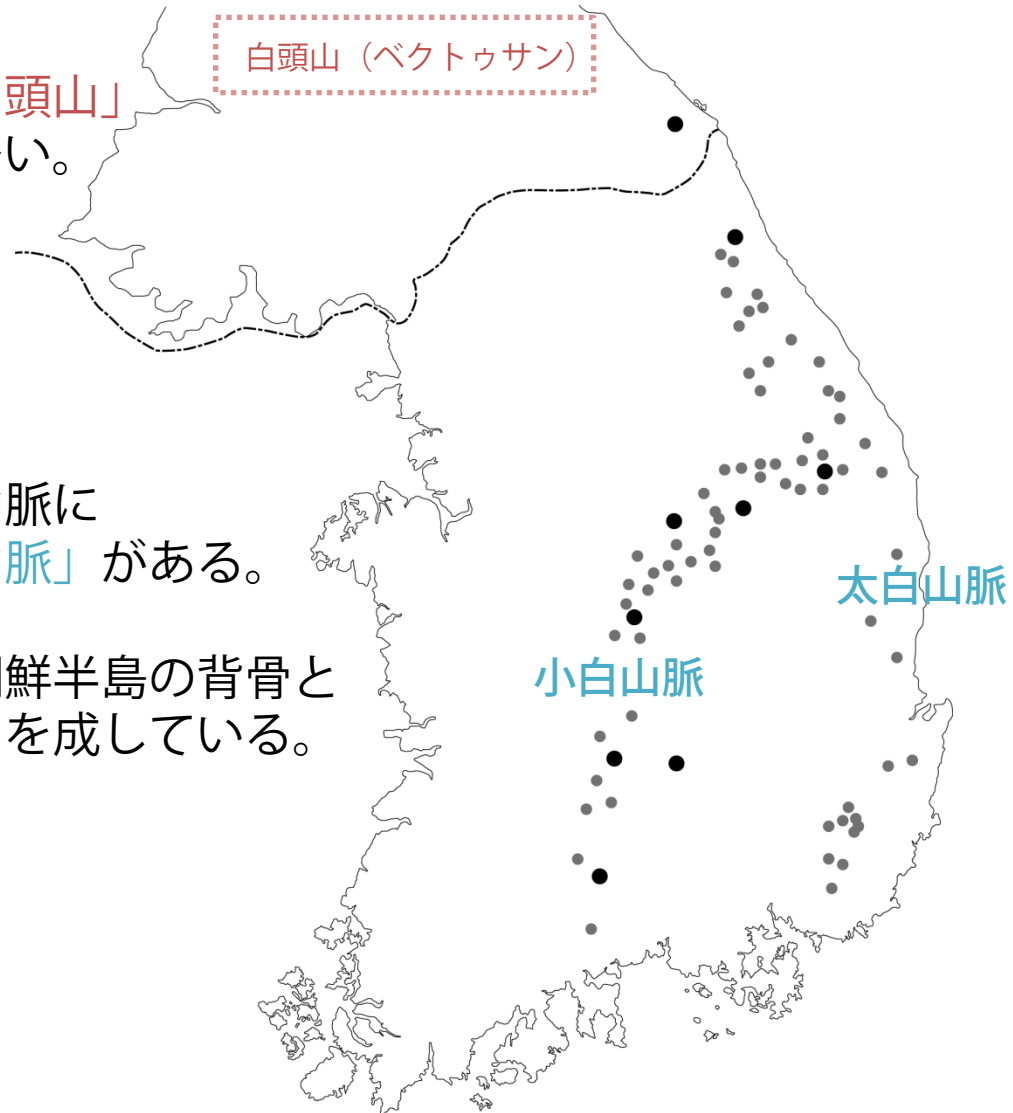
Ⅱ
(フラクタルな特性)

名称	原 理
看龍法	風水に内包されているすべての原理が可視的実体として表出された事象が山、すなわち風水用語でいう「龍」であり、祖山から穴場までの龍脈の流れの良否を察することを看龍法という。
蔵風法	明堂に位置する穴を探すことが目的である風水において、明堂周囲の地形、地勢をいかに認識しているかということは風水を理解する上で重要なカギとなる。この明堂周囲の地勢に関する風水理論を通称して蔵風法といい、これによって穴が決められる。
得水法	風水での水の役割やその重要性について、最も妥当なものは陰陽論的解釈である。陰と陽は単独ではものを生み出せず、陰陽が配偶することによってはじめて造化のはたらきが成立する。ゆえに形成の観点から論じると、山は陰であり、水は陽なので、山と水の両者が配偶することによってはじめて、陰陽両者がそろうことになる。そのため得水は陰陽和合に必要な不可欠な存在としてその重要性が認識される。
定穴法	「穴」とは、風水において要諦となる場所である。穴は陰宅の場合、屍体が直接に土地と接し、祖の生氣を得る場所であり、陽基の場合は居住者が実際に生活を営む場所である。朱子は「いわゆる定穴の法とは、針灸にたとえられるもので、おのずから一定の穴の位置があり、いささかの過ちも許されない」とし、風水の穴を人体の経穴に比喩している。
坐向論	坐向論は、山、水、方位、人間の4つの風水構成要素中、方位に関する術法である。元来、坐向は穴の位置からみた方位、すなわち穴の後ろの方位を坐とし、穴の正面を向とする。ここでは穴の坐向だけではなく、山や水の流れの方向等の方位問題全般が関連する。
系局論	これは最後の段階として、主に地勢の外観によってその感応の可否を判断する方法である。物形規局論ともいい、穴の形態や力量、氣勢をある物体の形状にたとえて表現するものであるが、風水の本質的な論理とは明らかにかけ離れた内容といえる。

風水の形式論理と地形の整合性

○看龍法からみた山の連なり

- 韓国風水の場合、「白頭山」を祖山とすることが多い。
- 白頭山を祖山とする山脈に「太白山脈」と「小白山脈」がある。
- これら2つの山脈は朝鮮半島の背骨と言われる「白頭根幹」を成している。



風水の形式論理と地形の整合性

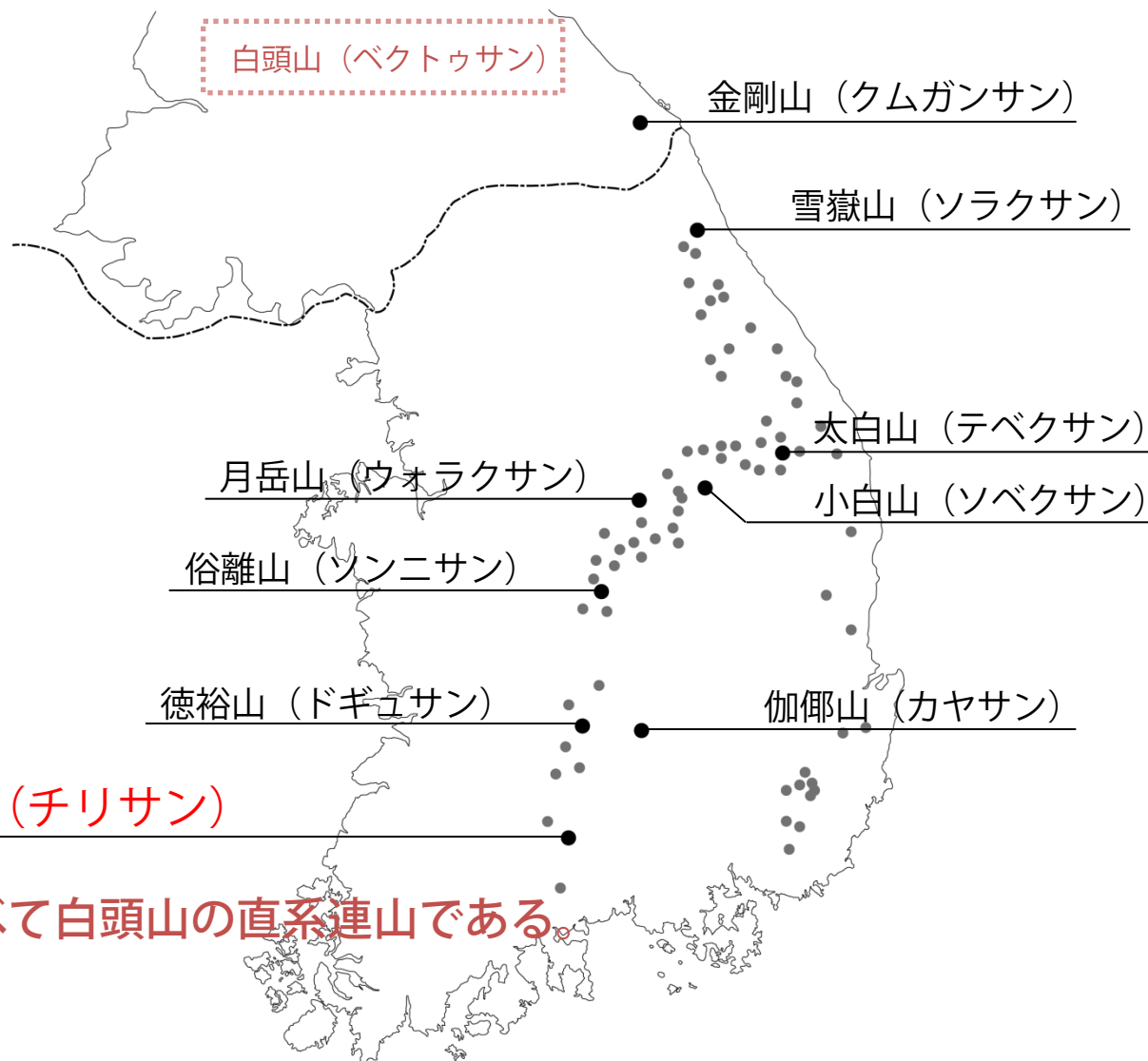
○看龍法からみた山の連なり

別名「頭龍山」



智異山 (チリサン)

- 盆地周辺の山々はすべて白頭山の直系連山である



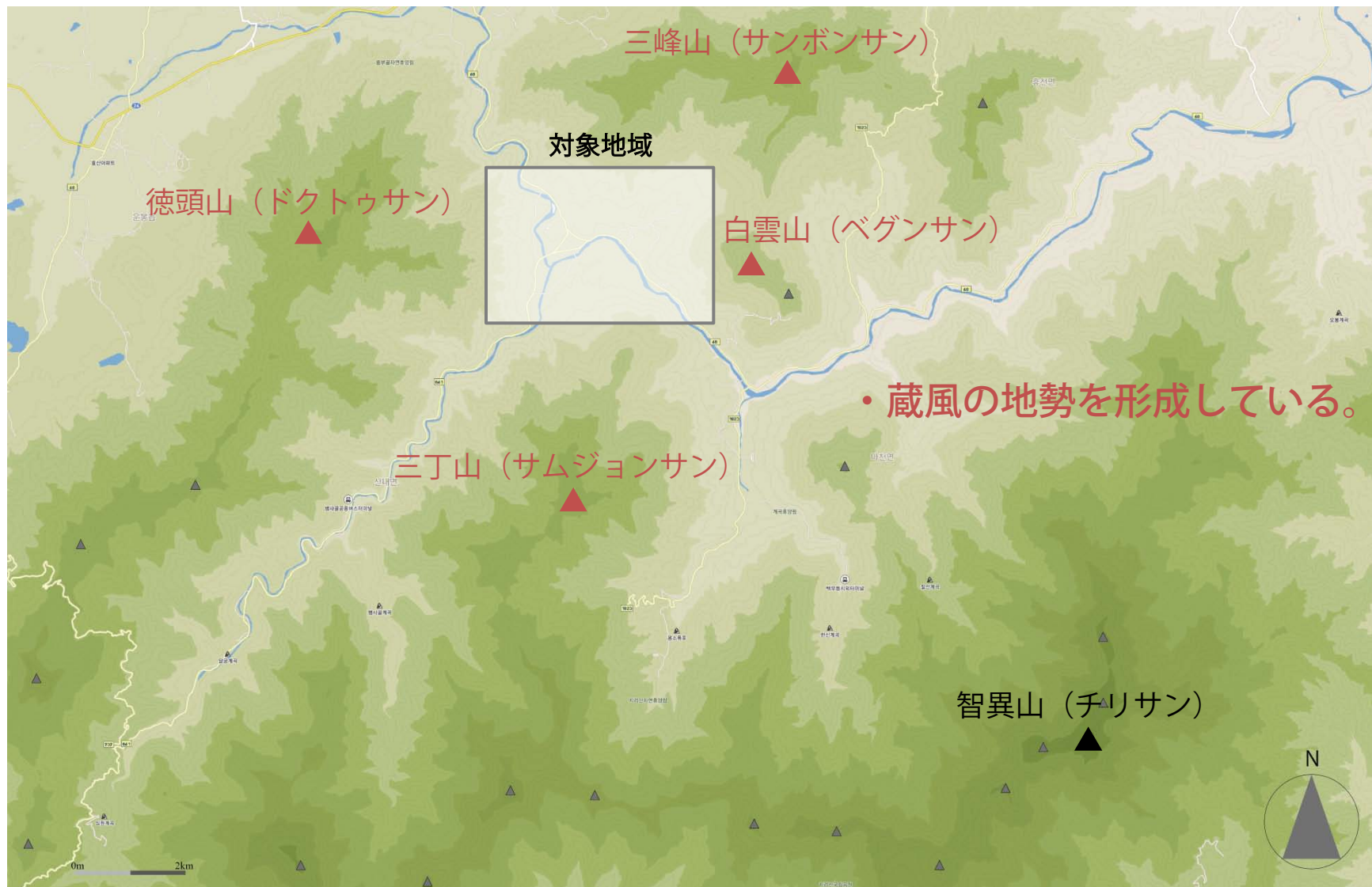
風水の形式論理と地形の整合性

○蔵風法からみた周辺の地勢



風水の形式論理と地形の整合性

○蔵風法からみた周辺の地勢



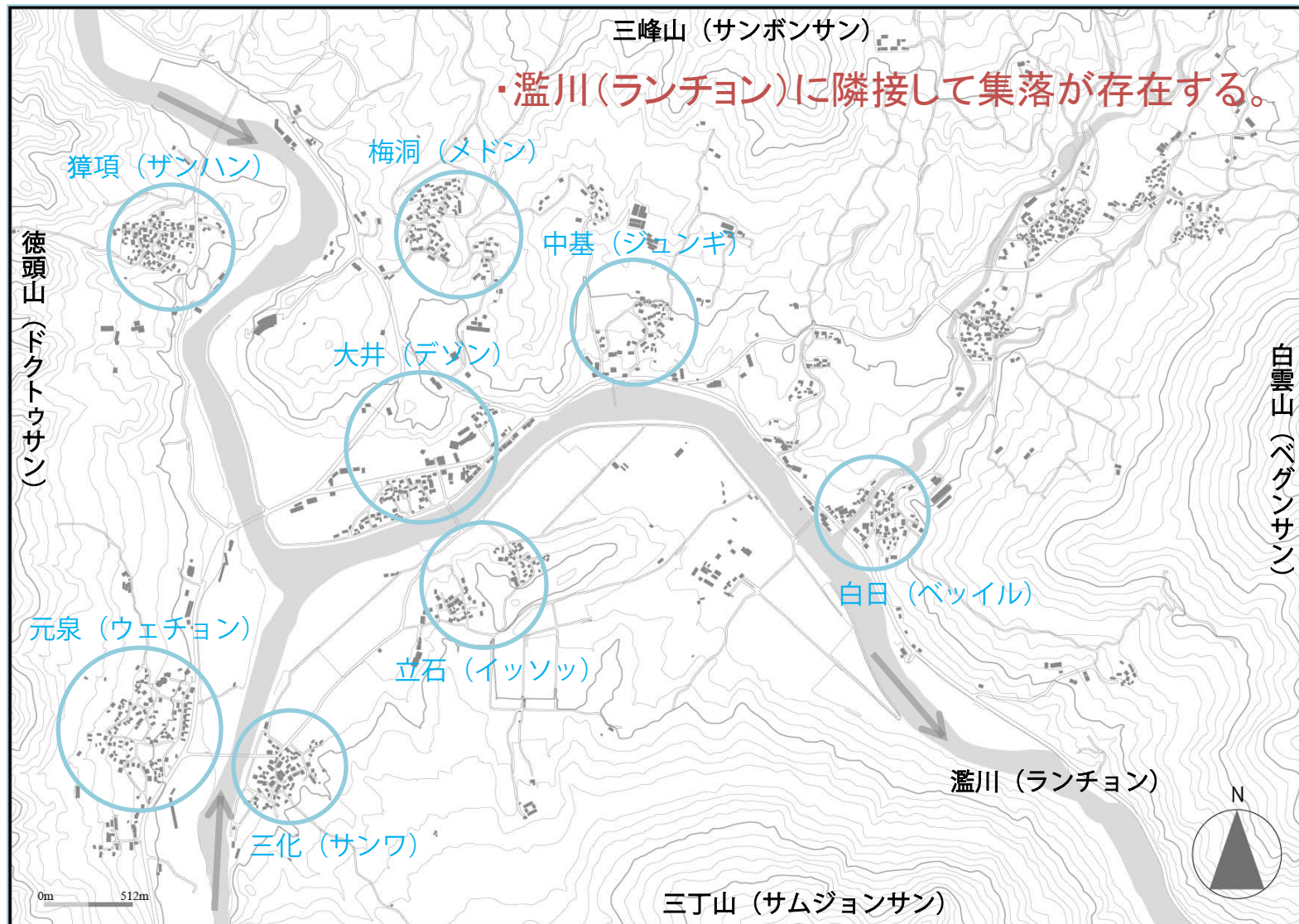
風水の形式論理と地形の整合性

○得水法からみた川と集落の位置関係



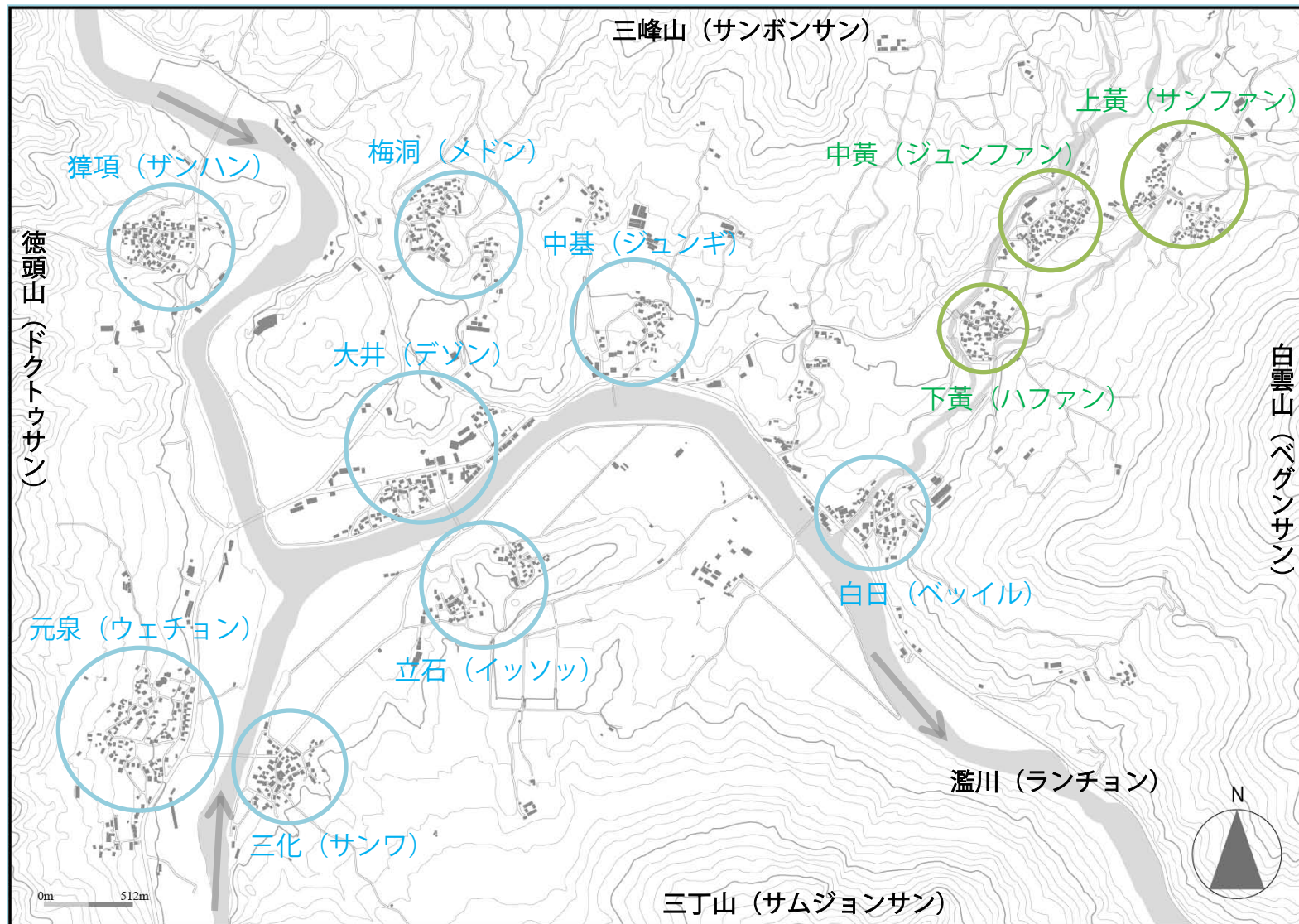
風水の形式論理と地形の整合性

○得水法からみた川と集落の位置関係



風水の形式論理と地形の整合性

○得水法からみた川と集落の位置関係



風水の形式論理と地形の整合性

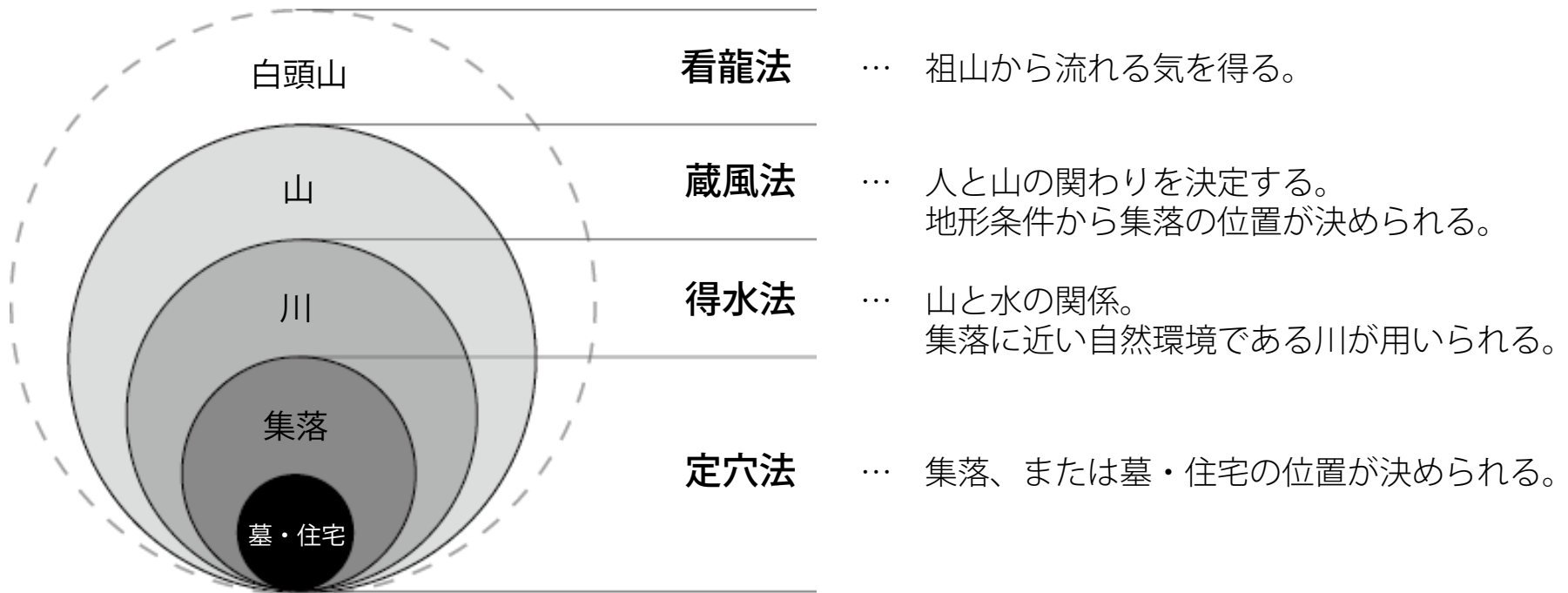
○定穴法によって配置された墓のもつ景観



- ・ 写真手前から、墓、集落、川、山という景観構成
- ・ 穴の位置がもつ景観の豊かさ

まとめ

風水思想のもつフラクタルな特性（全体と部分の関係）について実空間を例に検証した。4つの形式論理は入れ子構造によって説明できる。



風水のもつフラクタルな性質の模式図

盆地内の集落からみた重畳感のある景観

はじめに



「重畳感のある景観」

視点場から視対象の可視範囲内ではほぼ無限に山々が幾重にも折り重なり、奥行きのある立体的な景観のことをいう。

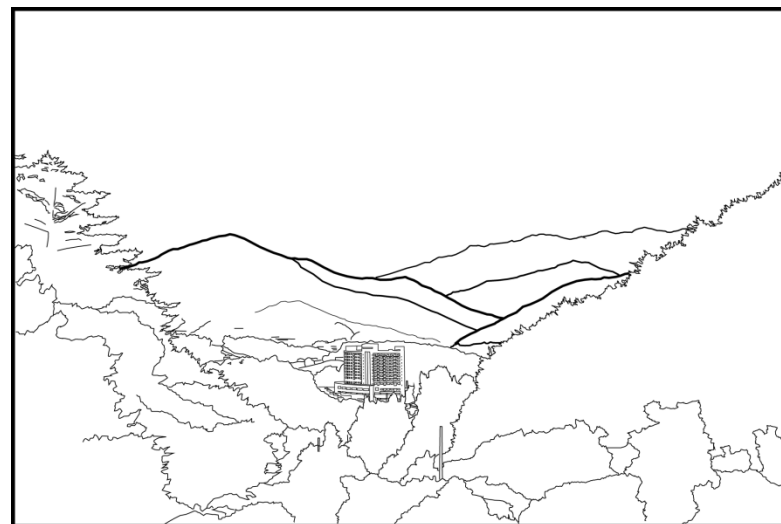
盆地特有の地形条件



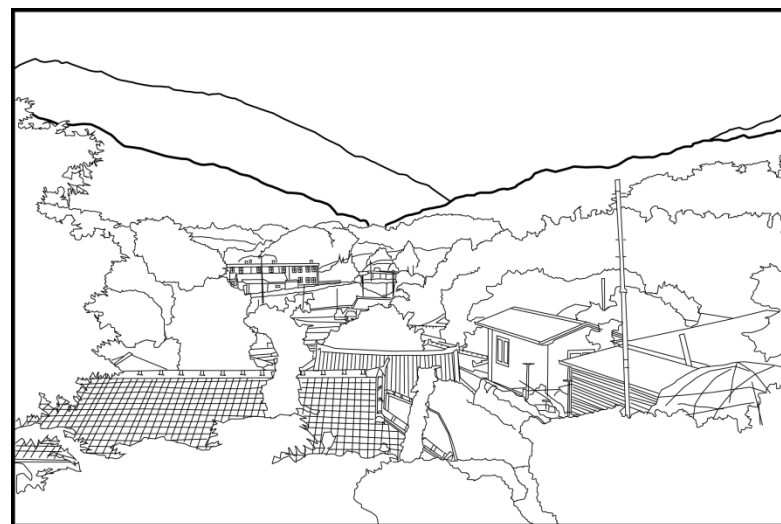
重畳感のある景観



重畳感のある景観

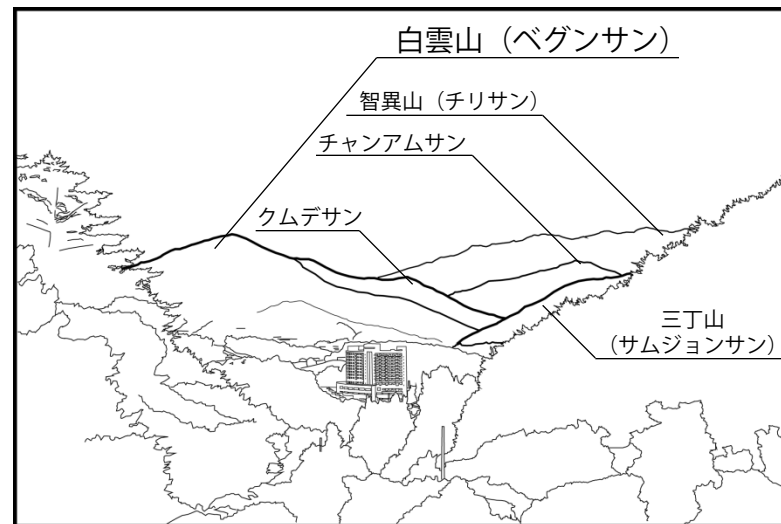


ポイント① 獐項（ザンハン）の景観

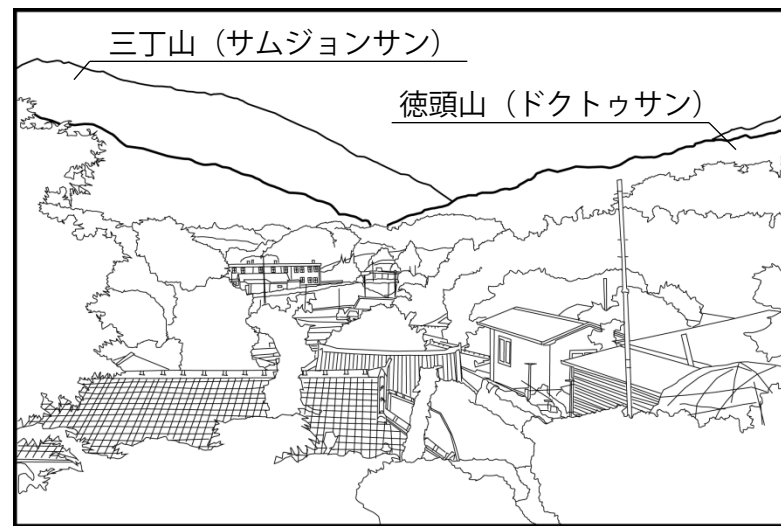


ポイント② 梅洞（メドン）の景観

重畳感のある景観

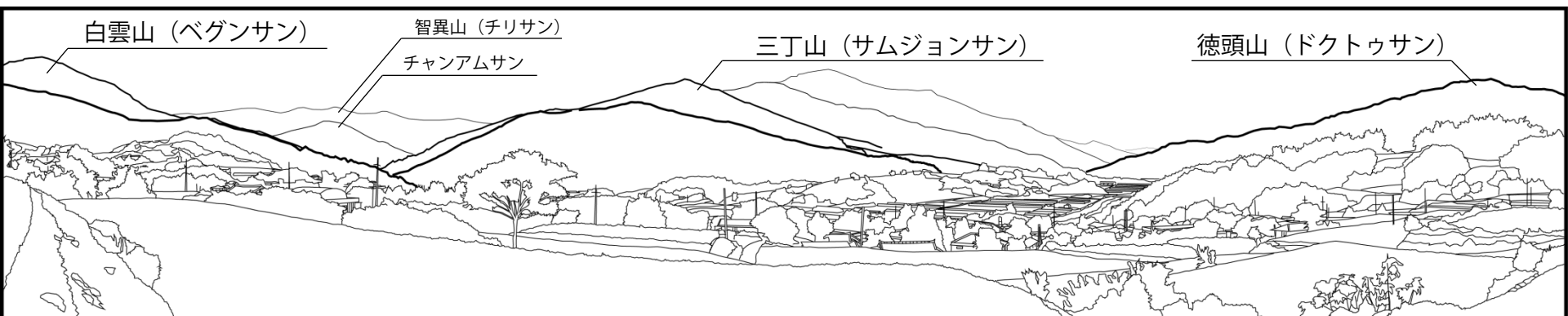


ポイント① 獐項 (ザンハン) の景観



ポイント② 梅洞 (メドン) の景観

重畳感のある景観

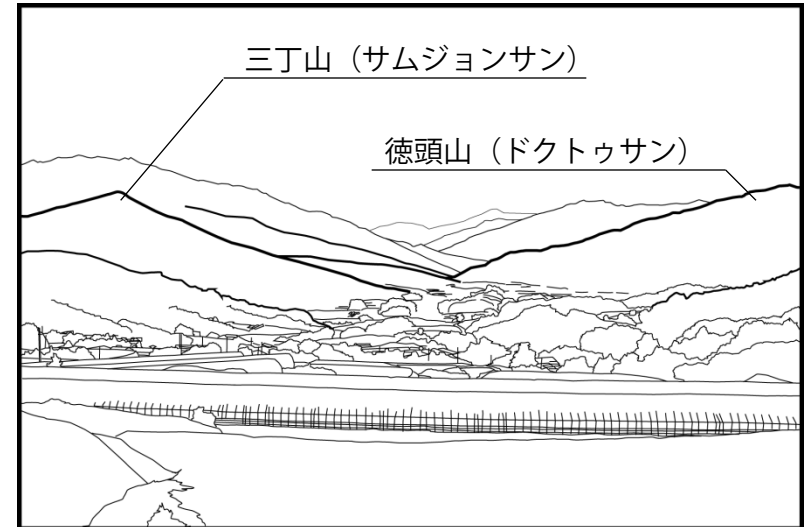


ポイント③ 中基 (ジュンギ) の景観

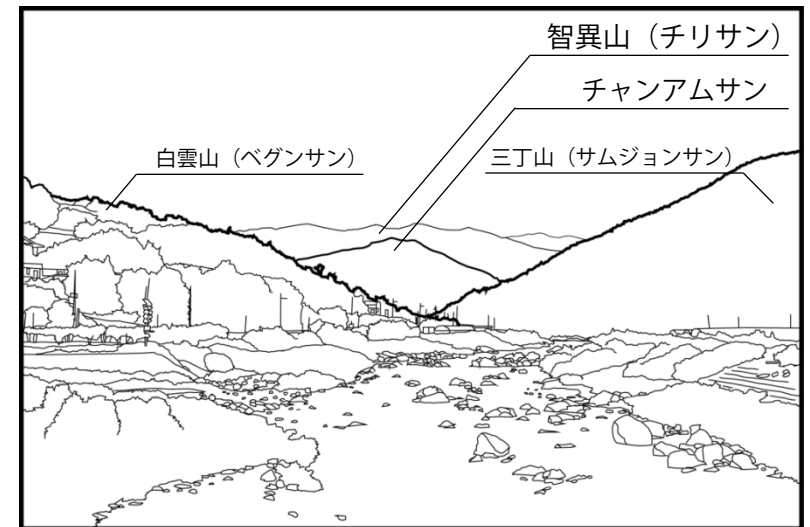
重畳感のある景観



ポイント④ 上黄（サンファン）の景観



ポイント⑤ 實相寺（シルサンサ）の景観



ヒアリング結果からみる景観と吉地の関係

李重煥：「択里志」

“水口は地形がよく閉じられていること（閉鎖であること）、その内側に平地が広がっているところが吉である。また、**閉鎖は何重にも重なっているほど大吉の地勢**である。”

集落名	風水認知			風水を感じる理由
	回答数	有	無	
獐項(ザンハン)	5	2	3	
梅洞(メドン)	4	4	0	山が幾度も連なっている。山も川も昔から良いといわれている。
大井(デゾン)	5	3	2	平地で住みやすい
立石(イツソツ)	3	1	2	ソウルのような雨での被害がない。ジルサンサがある・景観が良い(面全体での風水を感じる)。
中基(ジュンギ)	2	0	2	昔、地理学者が訪れ、この土地は風水的に良いと言っていた
元泉(ウェチョン)	1	1	0	昔から風水的に良いと言われている・里の人の心が優しい・チリ山に囲まれている。井戸があり、他の里からも病気になった人が利用しにきたりしている。
三化(サンワ)	6	4	2	山参が山にある・風水的な伝統がある(昔から良いと言われている)。 水や山、空気がきれい・外から移住して来る人が多い。
白日(ベッイル)	5	0	5	ジルサンサ・チリ山がある(面全体での風水を感じる)。
下黄(ハファン)	4	1	3	
中黄(ジュンファン)	2	0	2	人の心が優しい(山内面の警察から賞をもらったことがある)・長生きの人が多い。
上黄(サンファン)	2	2	0	山が並んでいる・水や空気がきれい・人の心が優しい。

総括

総括

本研究で明らかになったことは以下の通りである。

1. 自然・人間の調和ある環境形成を目的とした風水を現代において追及する意義を明らかにし、また、韓国農村集落の変化と景観破壊の現状を背景として論じた。
2. 風水の吉地選定のプロセスについて実空間を例に検証し、風水のもつ「全体」と「部分」の関係というフラクタルな特性を明らかにした。
3. 盆地特有の「重畳感のある景観」を特定し、住民のヒアリング結果から重畳感のある景観を有している集落は風水認知が高いことが明らかとなった。

以上の研究により、韓国農村景観の特性を明らかにした。特に、盆地を形成する集落の風水景観の豊かさが認められ、更なる風水景観の探求の可能性を示すことができた。

御清聴ありがとうございました。